

月例報告 10月

【トロントの「日本」発信】

オンタリオ州には、日本関連の施設、機関、団体は多く存在しますが、今回は、その中でもユニークな活動をご紹介しますと思います。

〈トロント大学日本研究センター フィリップ・リップシー所長〉

トロント大学の日本研究センターは、現代の日本についての研究、教育、そして一般の方への情報提供を円滑に行うため、2017年にトロント大学(マンク国際問題・公共政策研究所)内に発足しました。

2019年に、初代所長として、フィリップ・リップシー所長が就任されました。

幼少時を日本で過ごし、ハーバード大学、スタンフォード大学で日本の研究を深めた同所長は、北米における日本研究の最気鋭の学者の1人です。日本研究センターは、日本関連の講演シリーズとして、国際社会における日本の役割や現代日本の姿について考察する「Japan Now」講演会などを主催しています。11月中旬には、同センターにおいて、今年度の「Japan Now」講演会が行われます。今回のテーマは、これまでの新型コロナウイルス対応で課題となったグローバル・ヘルス・ガバナンスが予定されています。

リップシー所長は、トロント大学大学院にてカナダと日本、米国と日本の関係をテーマとした授業を持たれています。私自身、同所長のクラスに10月12日、お邪魔し1

時間程度、日本の外交についての私見を講演する機会を与えていただきました。

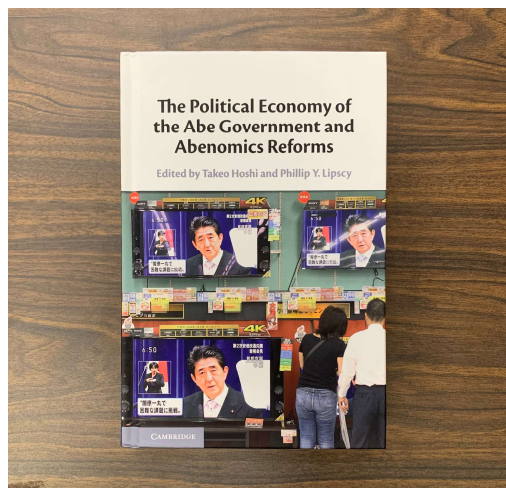


(Credit) University of Toronto

出席した学生たちからは盛んに質問を受け、学生たちの日加関係への関心の深さ、知識の広さに私自身驚きました。

リップシー所長は今年、安倍政権に関する研究書を上梓されました。(The Political Economy of the Abe Government and Abenomics Reforms, Edited by Takeo Hoshi

and Phillip Y. Lipsky, Cambridge University Press)



日本研究に関しては、北米地域には、ハーバード大学をはじめいくつか有力な研究所があります。トロント大学日本研究センターも北米地域でトップレベルの情報発信、研究を行っている機関です。同センターの今後の活動に注目したいと思います。



〈ロイヤルオンタリオ博物館(ROM)：武末明子キュレーター〉

クイーンズ大学に留学経験があり、カナダとご縁の深い故高円宮殿下の名を冠した

日本美術専門ギャラリーである高円宮ギャラリーが ROM 内にあります。博物館の改修予定のため同ギャラリーは現在は一時的に閉鎖されていますが、この7月に武末明子博士が、日本美術・文化担当のキュレーターとして就任されました。

ヨーク大学やトロント大学で研究をされた武末博士はワシントン D.C.のナショナル・ギャラリー・オブ・アートやモントリオール博物館でも仕事をされておられました。ROM でも以前、仕事をされておられましたので、今回はキュレーターとしての本格活動再開、ということになります。

ROM が有する日本関連の所蔵品はカナダではもちろん、北米地域でも随一の質と量を誇ると言われています。それらを一つ一つ、丹念に研究しそれら所蔵品の現代的意義、新しい見方などを提示されるのが、武末キュレーターのお仕事になります。これからの博物館は、単に一方的に情報を発信するのではなく、見ている方々の意見も取り入れながら、双方向で展示物の意義や意味を考えていく必要がある、と武末キュレーターは熱心に説明をしてくださいました。現在、様々な企画を練っておられるところ、とのこと。高円宮ギャラリーの展示再開と武末キュレーターの新しい展示方法に大いに期待したいと思います。

日本文化展示と言う意味では、現在、国際交流基金トロント日本文化センター(2 Bloor Street East, Suite 300, Toronto)

にて安藤広重の浮世絵「名所江戸百景」展が行われています。この時期の日本美術に

関心のある方は是非国際交流基金トロント日本文化センターを訪問してみてください。
現在、火曜日、木曜日であれば実際の参観が可能です。

なお、武末キュレーターは、ご自身でも浮世絵の研究発表も過去に行っておられます。

【オンタリオの日系企業訪問】

〈キヤノン カナダ〉

新型コロナウイルスの新規感染者数も落ち着きを見せつつあり、対人で日本企業や関係の皆様とお目にかかる機会も増えるようになってきました。

今月は、日本を代表するグローバル企業の一つである、キヤノン・カナダをブランプトンの本社に訪問することができました。

5階建ての吹き抜けの大きな社屋は、最新の環境関連技術を余すところなく用いた建物となっています。現在は、多くの社員がワーク・フラム・ホームですが、少しずつ職場で顔を合わせ出社する機会を増やしていく計画とのことでした。

一階には、ショールームがあります。(現在は感染対策のため一般の公開はしていません。)。社史の展示には、御手洗会長とヘイゼル・マカリオン前ミシサガ市長が、にこやかに微笑んでおられる写真がありました。トロント郊外への日本企業の集積を作った伝説のお二人のツーショットにある種の感慨を覚えました。

現在では光学分野のみならず医療やプリンティングまで幅広いグローバル企業となったキヤノンですが、原点はやはりカメラにあるそうです。カメラレンズの技術がコピー機の技術を生み、それは現在でも他社の追随を許さない高い技術力を有しているとのこと。現在は、カメラやプリンター、医療機器、業務用のプリンターまで幅広く、カナダ社会の隅々まで製品を届けておられます。

最初に社屋に入った際、北島社長と記念写真を撮らせていただきました。訪問の後に退出しようとしたら、それが早くもきれいにプリントされ額に入れてプレゼントしていただきました。素早く高い技術のサービスで、キヤノン・カナダならではの記念品でした。



(総領事報告では、今後、可能な限りオンタリオ州で活動される日本企業の皆さんの本を訪問しその訪問報告を行って参りたいと思っております。)

(了)